

〔飼鳥必用中〕唐家鴨 一名大家鴨と云。

此鳥羽色種々有り、形は雁金も少し小<sub>サ</sub>く、常の家鳴とは違ひ格別大鳥也、唐人食物に長崎へ持渡る也、

スタエントウ 一名立チ家鴨也

天明年中、紅毛人長崎へ持渡、初薩州へ廻る、京都上方江も手廣く相生立、近年不珍候へ共、初て長崎江渡る折は、珍敷云ふらしけり、形常の家鳴にて、頭をあげ立行也、宜敷鳥は後へ反り、至て珍敷あゆむものにて、面白きもの也、

口黒家鴨

此家鳴、觜足真黒にて總羽白し、此家鳴より先に、トンコク家鴨出る、右トンコク家鴨、總身黒にて鳥のごとく、口黒家鴨は琉球國の產にて、上方東都へ一向不見也、

バルケン 一名クワントウ家鴨と云

此鳥常の家鳴より格別大きくて、赤きとさか有り、鷄の柘榴さかの如くあるをよしとする、雌は頭迄少し赤し、此バルケンの雄に、常の家鳴の雌を掛け合生立しを、大家鴨と云へ共甚間違、是は掛合ものにて、東都においてイギリス共名を付る事に候へ共誠のイギリスにてはなし、和名にて不珍也、

〔食物和歌本草 六<sub>アヒル</sub>〕

鷺こそ虚を補ひて客熱を除臓腑を和するものなれ 鷺こそ驚癇に吉丹毒や水道を利し熱痢とゞむれ

家鳴卵

あひる玉子多く食せば身も冷て心みじかくせなかもだゆる あひる玉子瘡氣ある人くひぬ